



懐かしい
沿線写真で訪ねる

昭和の
街角を
紹介

京王線 井の頭線 街と駅の1世紀

矢嶋秀一

Hamadayama St. / Takaido St.

はま だ やま たか い ど

浜田山、高井戸

浜田山は閑静な住宅街の地下駅

高井戸は環8通りを跨ぐ高架駅

【浜田山駅】

開業年	昭和8(1933)年8月1日
所在地	東京都杉並区浜田山3-31-2
キロ程	7.5キロメートル(渋谷起点)
駅構造	地上駅
ホーム	1面2線
乗降人数	2万9236人

【高井戸駅】

開業年	昭和8(1933)年8月1日
所在地	東京都杉並区高井戸西2-1-26
キロ程	8.7キロメートル(渋谷起点)
駅構造	高架駅
ホーム	1面2線
乗降人数	4万3519人



○吉祥寺～井の頭公園間

デハ1400形の走行シーン。帝都電鉄時代に登場した昭和初期のスマートな車両であり、後に、京王線に転用のあと、昭和49(1974)年までに廃車された。



○高井戸駅

環状8号線との立体交差を見越して築堤上に開設された相対式ホーム2面2線の駅。昭和47年に島式ホーム1面2線の高架駅になった。



○浜田山駅

平成7年に地下駅化されるまでは地上駅で、北口だけに駅舎があった。宅地化が進み、高級住宅地の駅に成長したが、構内踏切を使用していた。



○高井戸の杉並清掃工場建設予定地付近

ゴミ処理問題で大きな社会問題ともなった杉並清掃工場は、昭和53年に建設着手、昭和57年に竣工した。

浜田山は昭和8(1933)年に帝都電鉄の駅として開業したが、当時の駅周辺は今からでは想像もできないほどの田園地帯だった。それは戦後まで続く光景で、戦後復興の歩みとともに劇的に住宅地へと変貌するのは昭和30年代後半からだった。とくに駅の南側は高級住宅街が形成され、大企業のグラウンドや公園なども整備されている。しかし、駅そのものは小ぢんまりとしていて、平成7(1995)年に地下駅化されるまでは構内踏切を使用していた。駅の地下化は20メートル車5両編成に対応するためにホームの延伸を図ったものだが、現在もホームの渋谷寄りと吉祥寺寄りの2カ所に歩行者専用の踏

切がある。しかも、出入り口は北側にしかなく、南側からの利用者は踏切を渡らなくてはならない。

高井戸も浜田山と同時に開業したが、その当時は築堤の上に2面2線のホームをもつ駅だった。駅の所在地が予定されていた環状8号線と交差していたためだった。昭和47(1972)年には環8通りの開通にともなって、島式ホーム1面2線の高架駅になった。駅高架下は長らく京王クラウン街だったが、平成18(2006)年にリニューアルされて、京王リトナード高井戸となった。駅から環状8号線を渡った北東部に杉並清掃工場とゴミの焼却熱を利用した温水プールがある。



昭和
36年

撮影：小川隆吉

高井戸付近を走る

手前は神田川であり、いかにも武蔵野の風景と感じられる。電車の後方には現在、杉並清掃工場が建てられている。



昭和
31年

提供：京王電鉄



昭和
39年

撮影：荻原三郎

高井戸駅ホーム

デビューして間もない頃の3000系。7種類の色を施した斬新なアイデアが「レインボーカラー」として人気を呼び、現在も受け継がれている。

浜田山駅

帝都電鉄でよく見られた島式ホームの上に駅舎を設けたもので、平成7年に地下駅化された。入口は北側にしかなく、南側からの利用者は踏切を渡らなくてはならなかった。



渋谷区

目黒区

世田谷区

杉並区

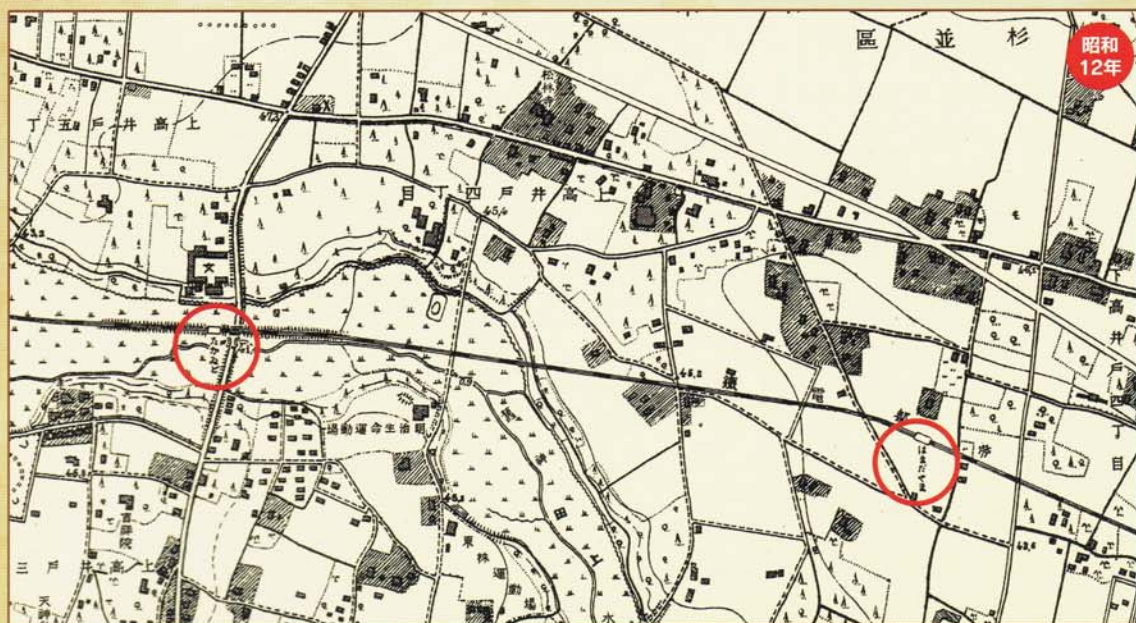
三鷹市

武蔵野市



古地図探訪

浜田山～高井戸駅付近



昭和
12年

地図中央を横切る鉄道路線に「帝都電鉄」の表記がある。その表記の下に「はまだやま(浜田山)」駅が記されている。今では高級住宅街として知られる浜田山駅周辺だが、駅の北側を走る井の頭通り沿い以外は宅地が見られない。次の「たかみど(高井戸)」駅周辺は水田地帯で、駅の南を流れる神田川の水が水田を潤わせたのだろう。高井戸駅の東側を南北に走っている道路が、現在の環状8号線になる。